2011 年 11 月 8 日

＜回答者＞

代表取締役社長 大宮 久、代表取締役副社長 大宮 正、取締役 松崎 修一郎、IR 室長 掛見 卓也

【質問 1】原材料価格の動向について

Q 原材料価格の動向について、粗留アルコールを中心に足元の状況および来期の動向をどう見ているのか。

A 当期は大幅な増収によって、本来であればもっと利益が出るはずだが、(ブラジルから輸入している)粗留アルコールの価格が高騰しており、コストアップとなる見込であります。
(粗留アルコールの原料である)ブラジルのサトウキビは 4 月末頃から収穫が始まり、粗留アルコールとなって日本に輸入される 8 月頃になると、通常であれば粗留アルコールの価格は下落するが、今年は遅霜によるサトウキビの不作と、株の植え替え不足による収穫量の減少の影響が出ており、粗留アルコールの価格が高止まりしています。
その他の原材料等も含めた原価コストアップは上期 92 百万円、下期 403 百万円、通期では約 5 億円になると見込んでいます。
今後の粗留アルコールの価格動向としては、米国のコーンアルコールの価格との比較になるが、徐々にコーンアルコールの価格に近付いてきており、これがひとつの天井になると考えています。
従って、このまま粗留アルコールの高騰が続くとは考えにくい状況ではあるが、世界の人口増加や、アルコールを燃料としてガソリンに混合する用途の広がりなどによって、逆に価格が下落することも期待できません。
当期の上期は、昨年に仕入れた粗留アルコールの在庫の関係で、それほど大きなコストアップとはならなかったが、下期は高止まりしたままの粗留アルコールを仕入れなければならないのでコストアップの負担が大きくなります。

Q 粗留アルコールはどのような製品に使用されているのか。

A (粗留アルコールを輸入し、宝酒造の工場で再蒸留して精製したうえで)原料用アルコールとして(酒類・食品・化粧品メーカー等に)販売するほか、焼酎甲類、甲乙混和焼酎、清酒(純米酒除く)、本みりん、チューハイなどの原料として使用しています。

【質問 2】焼酎の販売動向について

Q 焼酎の売上が減少傾向にあるが、この状況をどう見ているのか。

A 焼酎の市場は甲類・乙類ともに減少傾向にあります。このうち、乙類に関しては一時ブームで大きく伸びた反動がでているという側面もあり、これが落ち着けば再度上昇すると考えています。
市場動向に関わらず、どの酒類のカテゴリーでも差別化商品を発売することで対応することができると考えています。例えば甲類では、“極上＜宝焼酎＞”という樽貯蔵熟成酒を 3%ブレンドした差別化商品を発売しており、これが伸びています。その他のカテゴリーでも、清酒では“松竹梅「豪快」”など、各カテゴリーで差別化された品質の商品を提供していくことが、人口減少などによる国内酒類市場の縮小傾向に対応していく手段になると考えています。

2011 年 11 月 8 日

**【質問 3】TPP（環太平洋経済連携協定）について**

Q　TPP への加盟が決まれば、原材料の輸入価格の低下などプラスに働くのか。

A　まだ決定されたことではないので、具体的なことは特に申し上げられないが、大きな影響はないと考えています。

**【補足】TaKaRa グループの事業展開について**

（※質疑応答終了後、社長の大宮より補足説明として以下の内容の発言がありました。）

昨今、国内での成長性を憂慮して海外へ進出する企業が多いが、当社では企業が持続的に成長するには国内外を問わずバランスのとれた事業展開が必要であると考えています。「脱日本」ではなく、ポートフォリオ強化のために海外に展開するということです。

事業内容としては、宝酒造グループで安定的なキャッシュフローを稼ぎ出し、タカラバイオグループで飛躍的に成長することを目指しています。また、タカラバイオグループにおいては、遺伝子医療事業で HSV-TK 遺伝子治療を 2017 年に上市することを目指すなど、将来に向けた夢も持つ一方で、研究用試薬の製造・販売を行う遺伝子工学事業では安定的に利益を計上しています。

こうした独自性の強い、バランスのとれた事業ポートフォリオが当社の特徴であると考えています。

以 上